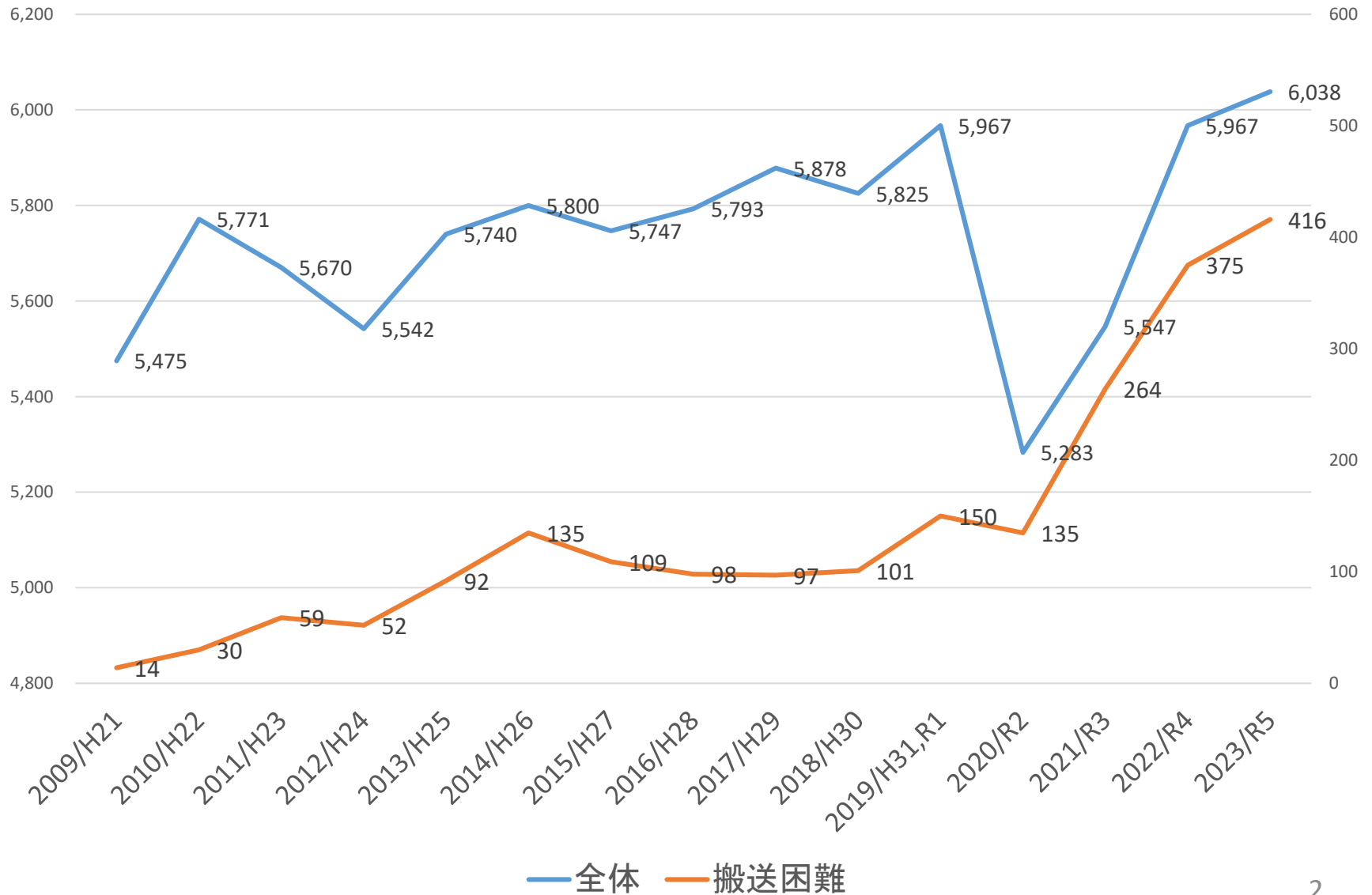


津山・英田圏域の救急医療体制

令和6年11月7日(木)
美作保健所運営協議会

搬送件数及び搬送困難事例の増加



津山・英田保健医療圏 人口ピラミッドの変化(2020-2040年)

2020年から2040年にかけて、当該医療圏の人口は**約35,000人減少**する。
人口構成だけで考えると、**減少分は65歳未満**の人口である。

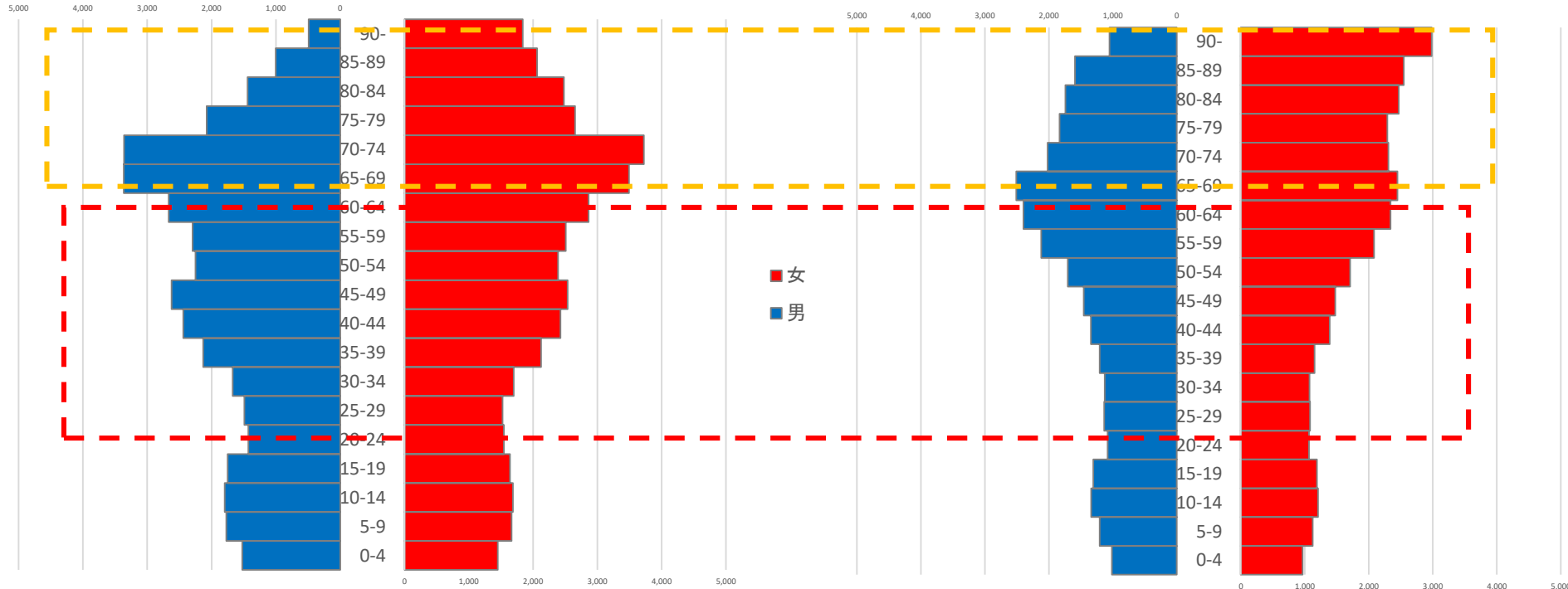
173,385人※1

約20%減

138,658人※2

33岡山県 3305津山・英田 2020年

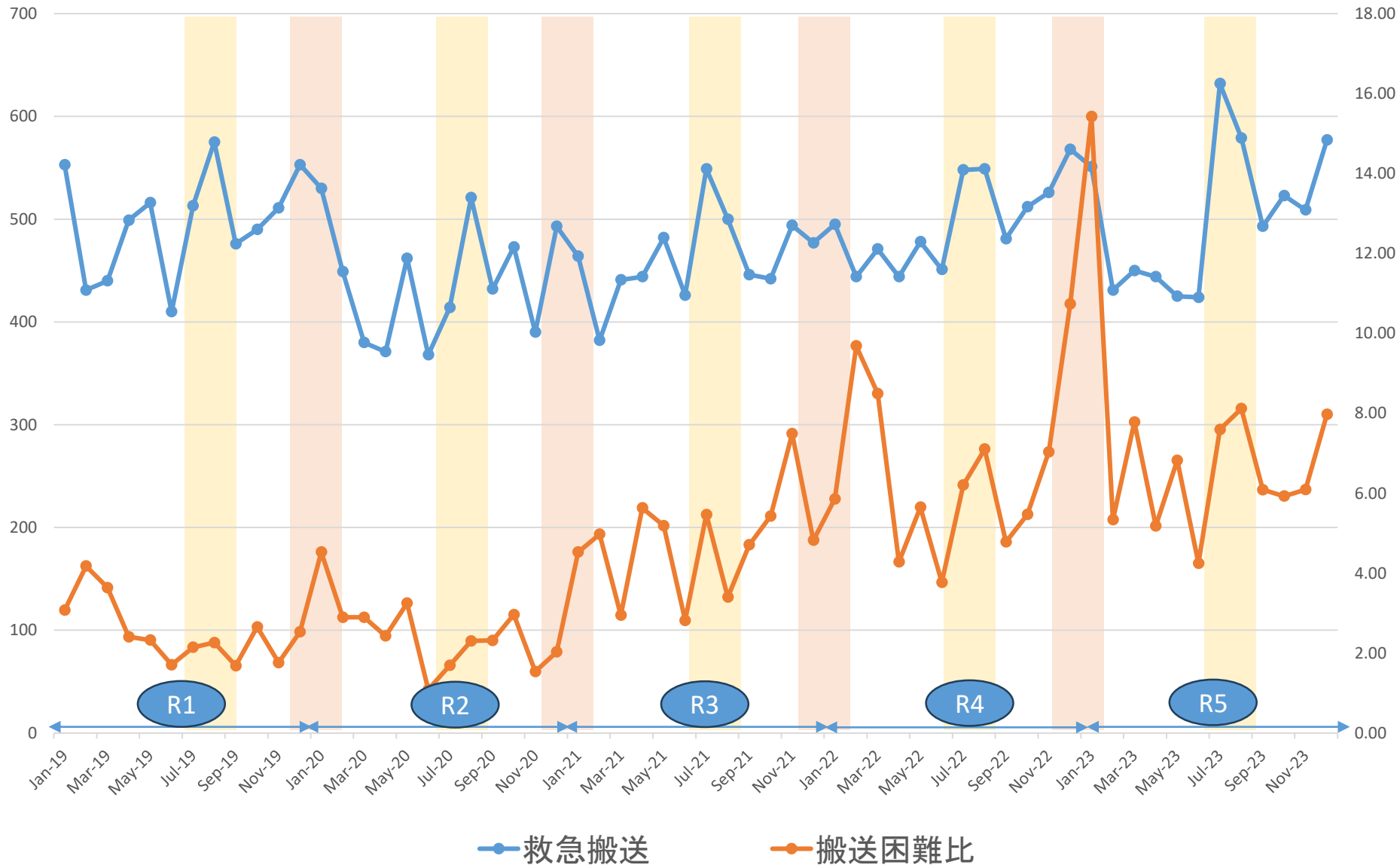
33岡山県 3305津山・英田 2040年



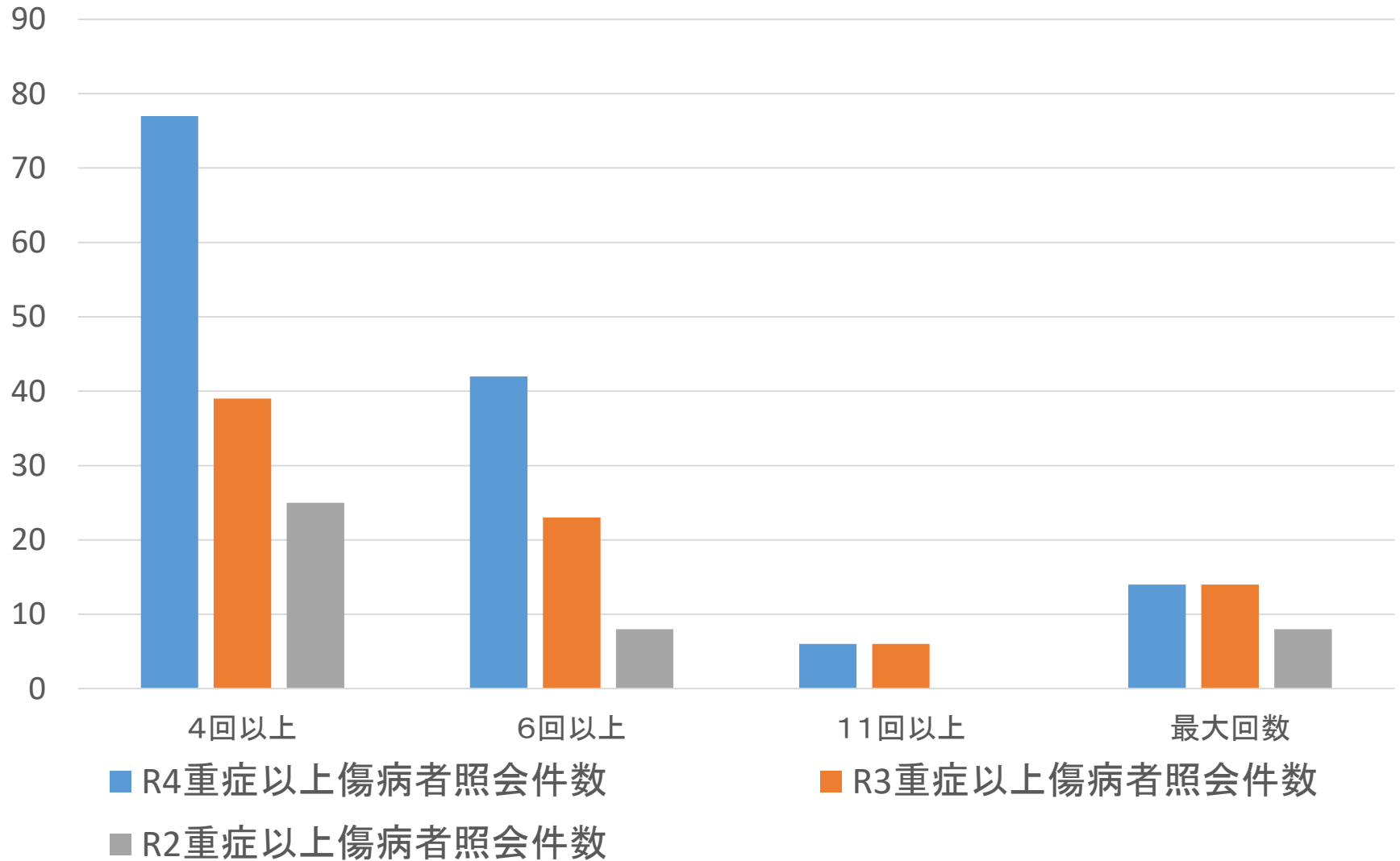
※1・・2020国勢調査

※2・・将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

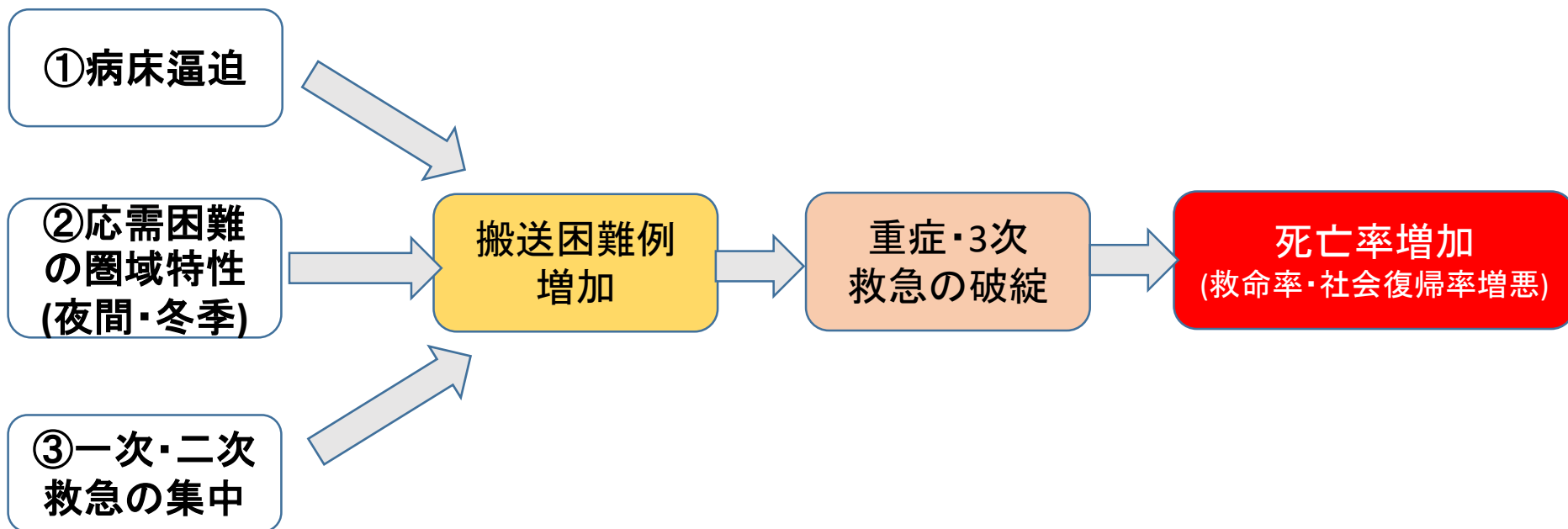
冬季に搬送困難が増加



重症者も搬送困難になっている

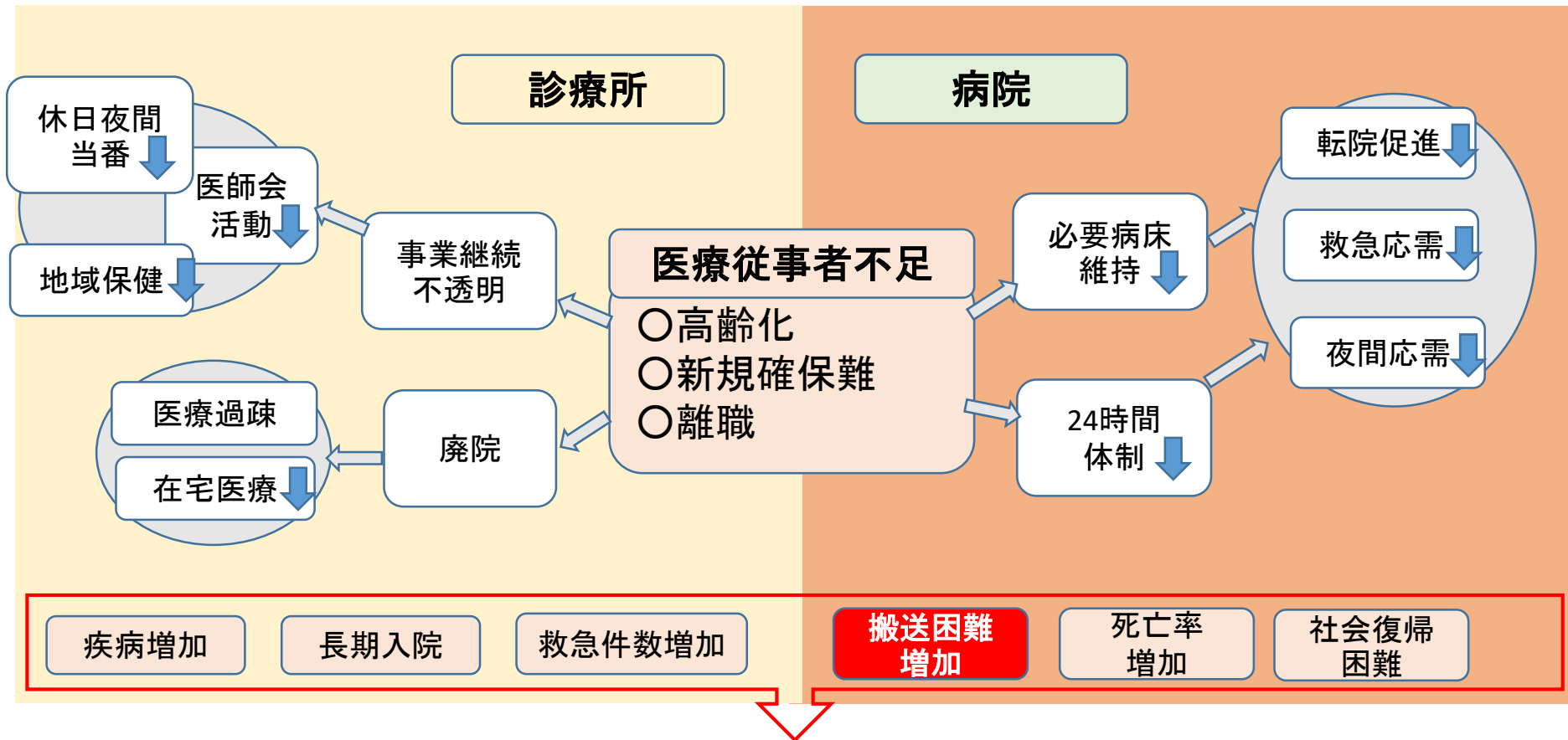


津山・英田圏域の救急医療体制の課題



地域医療構想を踏まえた2025年に向けた対応方針 各医療機関から提起された課題について

- ほぼすべての医療機関に共通して、“医療従事者不足”という課題がある。
- 一次救急(在宅当番)・二次救急(救急輪番)の維持が困難になっている。
- 医療機関が廃院すれば、地域包括ケアシステムの空白地域が出てくる恐れがある。



2040年を想定すると地域医療エコシステム(1～3次予防)の危機

救急医療搬送困難事例増加に対するパッケージ対応策

①病床逼迫

- ・病院間の役割分担・連携強化
- ・病床の見える化
- ・上り・下り転院搬送の促進

②応需困難 の特性 (夜間・冬季)

- ・高齢者施設の早期対応システム
- ・住民への普及啓発(かかりつけ医、救急医療のかかり方など)

③一次・二次 救急の集中

- ・救急告示病院、救急輪番制度の見直し
- ・休日夜間一時救急体制の見直し(在宅医当番制など)